

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	患者の行動変容を導く動機づけ技法の修得を目指す 対人援助型コミュニケーション能力育成プログラム				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授	氏名	仲井 雪絵
	研究分担者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・准教授	氏名	長谷 由紀子
		所属・職名	日本医学教育学会 学会国際化委員会・委員	氏名	吉田 登志子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・代表	氏名	田中(前田) 純子
	発表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授	氏名	仲井 雪絵

講演題目	行動科学に基づく対人援助型コミュニケーション技法「MI」のシミュレーション教育プログラム —模擬患者参加型演習への応用展開—
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的・背景】</p> <p>「動機付け面接法」(Motivational Interviewing; MI)とは、患者教育・保健指導の場面で行動変容を導く対人援助理論とその技法であり、行動科学をベースとしてMiller W.R.とRollnick S.によって構築された。健康増進行動や治療アドヒアランスに対する有効性のエビデンスが着実に確立されつつある。口腔保健領域におけるMIに関しては、Philip Weinsteinが歯科保健指導等に応用しその有効性を報告した。MIは、保健指導に従事する医療者の間で世界標準の技法として認知されている。</p> <p>日本の歯科衛生士養成における医療コミュニケーション教育はいまだ発展途上であり、特にMIに関する教育は皆無に等しい。そこで本研究代表者は当該領域の専門家の協力を得て、本学の教育課程に同教育プログラムを導入するための計画を立案し遂行してきた。平成28年度は教材として医療面接シナリオとルーブリック評価シートを開発し、平成29～30年度に医療系大学間共用試験実施評価機構委員(医療面接教育の歯科系教育研究者)の協力を得て、初診時医療面接技法の学修に体験先導型シナリオベース教育法を導入した。その際に前年度作成した教材を活用した。令和元年度は、全国の歯科衛生士養成校に先駆けて、MI技法を歯科保健指導に応用するための歯科衛生士向けプログラムを考案・試行した。チーム医療において必要な保健指導力を修得するには、この面接技法の理論を実践につなげるシミュレーション教育を拡充する必要があると考えた。そこで、令和2年度には模擬患者(SP; Simulated Patient)参加型演習を試験導入した。令和3年度の目的は、昨年度の実施様式に臨地実習前の学生レベルに合わせて改善を加え、臨床現場さながらの実践機会を学生に与えることであった。実践と省察によって翌年の臨地実習に自分自身の課題に気づき、主体的に課題解決する力を養うことまで追求したいと考えた。本研究の長期的目的は、他職種と協働し静岡県民に高水準の口腔保健・歯科医療を供給できる優秀な歯科衛生士を育成することである。</p> <p>【成果及び今後の展望】</p> <p>当該分野の教育研究の第一人者である吉田登志子氏と、わが国初のSPとして日本全国の医学・歯学系医育機関で長年活躍中の前田純子氏を招聘し、本研究組織構成員が協働でプログラムを策定した。COVID-19感染拡大防止に最大限配慮した上で、歯科衛生学科2年生40名を対象に、MI理論と実践に関する講義を行った。その次に、歯科臨床の設定でシナリオベースのSP参加型実習としてMI技法の演習を実施した。プログラム終了後に受講学生が記述した内容によると、SP参加型のMIの学びは大変新鮮な経験として、また今後の臨地実習で実践する意欲に満ちた意見が多かった。臨地実習前の時期にSPを相手に臨場感あるシミュレーション教育を実施したことが、情意領域の醸成にも寄与したと考える。今後は多様な臨床場面を設定したSP参加型シミュレーション教育として拡充を図りたい。</p>